竹田市立中学校「制服のあり方」に関する検討会

中　間　報　告　書

令和４年７月

竹田市立中学校「制服のあり方」検討委員会

１、はじめに

学生服は、愛校心や帰属意識を高め、仲間意識や連帯感を醸成し、また、各家庭の経済格差が表れにくいといったメリットがあることから、全国の中学校、高等学校等において定着している。

一方、急速な情報化・国際化の進展など社会の変化に伴い、価値観や性のとらえ方が多様化する中、制服についてもそのあり方が問われる時代となっている。

国等の動きとして、公正取引委員会は、制服の指定・仕様、学校と制服販売業者との関係、制服の販売価格等に関する「公立中学校における制服の取引実態に関する調査」を実施し、報告書をまとめて、学校に対して期待する取り組みを提示している。文部科学省は平成 30 年３月 19 日付通知「学校における通学用服等の学用品等の適正な取扱いについて」において、保護者等の経済的負担が過重なものとならないよう留意することなどの留意事項を通知している。併せて、平成 27 年４月 30 日文部科学省通知「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」において、性同一性障害に係る児童生徒についての学校生活の各場面における特有の支援として、服装に関する支援事例を例示している。

上記の事を踏まえ、全国の自治体や近隣自治体でも、スカートやスラックス、キュロット等が自由に選べる、ブレザータイプの制服に変更する学校が増えている。

そこで、令和４年度から、学識経験者、保護者代表等を委員とした「竹田市立中学校制服あり方検討委員会」を設置して、諸課題の解決に向けて検討を行っている。

児童・生徒及び保護者を対象として教育委員会が実施したアンケート結果を踏まえつつ、基本的方針の提言となる中間報告を下記のとおりまとめた。

竹田市教育委員会においては、本中間報告書を踏まえ、これまでの伝統である制服の意義を大切にしながら、価値観や性のとらえ方が多様化する時代に適応した見直しを行うことで、生徒からはもちろん、保護者をはじめとする市民全体から愛される標準服（制服）になるようより良い基本的方針を策定することを期待する。

２、竹田市における中学校標準服の課題と現状

竹田市内の中学校では、長年、学校ごとに決められた標準服（以下、制服）として、男子は詰襟の学生服、女子はセーラー服を着用してきた制服は、生徒や保護者また、地域住民に学校のシンボルの一つとして親しまれ、それが愛校心や連帯感の醸成に役立っているという考え方もあることに留意する必要がある。

しかしながら、現在の制服は、保護者の負担軽減、登下校を含め夏季時期の過ごしやすさ、性的マイノリティの方々への配慮やジェンダーの平等の視点から課題がある。

（1） 保護者の経済的負担

① 竹田市の現状

中学校入学に際して保護者が準備する様々な品目の中で、標準服の購入に係る費用は比較的高額である。令和 4 年 6 月に実施した保護者アンケートにおいて、中学校の制服に関する印象という項目で「入学時に初期費用がかかる」と答えた割合が 36.7%となっている。また、各中学校の仕様・ロット数が異なるため、中学校間で価格差があり、例えば、女子の制服では、中学校間の最高額と最低額との差は価格差 1.3 倍となっている。

個人的な制服の譲り受けがあるもの、市全域での制服リユースの仕組みが出来ていない課題もある。

② 国等の動き

ア）公正取引委員会

公正取引委員会は、全国の公立中学校から抽出した 600 校を対象として、制服の指定・仕様、学校と制服販売業者との関係、制服の販売価格等に関する「公立中学校における制服の取引実態に関する調査」を実施し、報告書を提出した（平成 29 年 11 月 29 日）。当該報告書の中で、学校に対して期待する取り組みとして、次の 2 点を提示した。

・制服メーカーや販売店間の競争を促して安価で良質な標準服が提供される可能性を高めるため、コンペや見積り合わせにより制服メーカー等を選定すること

・購入窓口の増加を通じて、より好ましい取引環境を作り出すため、指定販売店等を増やすこと

イ）文部科学省

文部科学省は平成 30 年 3 月 19 日付通知「学校における通学用服等の学用品等の適正な取扱いについて」において、次の留意事項を通知した。

・学校及び教育委員会は、標準服等の学用品の購入について、保護者等の経済的負担が過重なものとならないよう留意すること

・教育委員会は、保護者等ができる限り安価で良質な学用品等を購入できるよう、各学校の取り組みを促すこと

・学校における標準服の選定や見直しについては、最終的には校長の権限において、適切に判断すべき事柄であるが、保護者等学校関係者からの意見を聴取した上で決定することが望ましいこと

（2）性的マイノリティの方々への配慮やジェンダーの平等の視点

① 竹田市の現状

男女を区別して指定している現在の制服は、性的マイノリティの方々への配慮

やジェンダーの平等の視点からも課題がある。アンケートにおいても、現在の標準服を「見直す必要がある」と思っている割合が、「どちらかと言えば思う」を合わせて、小学生並びに保護者で 75%を超えている。特に実際着用をしている生徒の62%が見直す必要があると回答している。自由記述意見の中でも、「誰でも好きな制服を選べるようにすると、多様性の面で制服について傷ついたり悩んだりする人が減ってそうやって悩んでいた人たちが救われると思う」・「女性がスカートでなければいけないという考えはやめていいと思います。自由な選択肢を与え、個人を尊重する考えを、自然と身につけるチャンスだと思います。」等性的マイノリティの方々への配慮から制服のあり方を検討すべきという意見が多い。

②国等の動き

文部科学省は、平成 27 年 4 月 30 日文部科学省通知「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」において、性同一性障害に係る児童生徒についての学校生活の各場面における特有の支援として、次のとおり服装に関する支援事例を例示した。

●服装：自認する性別の制服・衣服や、体操着の着用を認める

（3）機能的課題

① 竹田市の現状

現在の制服は、学校によっては、合服が無い学校もあり、温度調整がしにくい課題がある。冬場はカーディガンを羽織ることを可能にするなどの制服の機能性だけではなく、個人の体感に合わせた柔軟な対応を学校に求める声もある。また、洗濯やアイロン掛けなどの家庭でのケアを勘案して、速乾素材のもので、痛みにくいもの、洗濯しやすいものなどの機能性向上を求める声が大きい。

3、中学校標準服（制服）の今後のあり方

検討委員会では、経済的負担の軽減、多様性への配慮、機能性の向上等を勘案して、中学校 6 校が統一仕様の制服に変更することが望ましいと考える。

選定においては、上記の諸課題並びに児童・生徒、保護者の要望にできる限り対応するために、下記のことに配慮を望む。

■機能的配慮

・近年の気温の上昇、空調導入等による気温差に対応しやすく、また、様々な活動の支障にならない動きやすいデザイン、生地等とすること。

・耐久性にすぐれ、洗濯やアイロンなど家庭でのケアがしやすい素材等を採用すると

ともに生徒の成長に対応できる仕様とすること。

・夏服を通気性のよいポロシャツにするなど猛暑に対応したものとすること。

■生徒への配慮

・スカートやスラックス、キュロット等が自由に選べるなど男女差のないもの等の導入により、性差のある制服を着用することに負担がある生徒への配慮を行うこと。

・防犯面からも学校名、氏名の刺繍以外での氏名表示方法を検討すること。

■経済的な配慮

・制服価格の学校間差をなくすために、統一服とすることで、数量をこれまでより確保し、価格を有意に下げること。

・現行もしくは現行以下の価格設定をめざすこと。

・大手メーカーの既製品の導入も検討すること。

・現行の制服に愛着を持つ生徒へ配慮するとともに個人的な制服の譲り受けを考慮し併用（混在可）期間を十分に設けること。

・シャツ等については、学校マークなど刺繍等を不要にし、どのメーカー既製服でも着用可にするなど安価で購入できる方法を検討すること。

・市全域での制服リユースの仕組みを検討すること。

■その他の配慮

・デザイン選定などの時に児童生徒・保護者の意見が反映できるようにすること。

・カーディガン着用や私服デー等子どもたちが望む取り組みも検討すること。